

脇指 銘 陸奥守大道作／大縄賢物 義辰

法量 刃長 362mm 反り 4.0mm 元幅 29.0(30.7)mm 元重 6.3mm

形状 平造り、真棟、先反り深く、身幅広い。

鍛 板目に杳交えて流れ、地沸ついで、地景入り、腰元に淡く映り立つ。

刃文 頭、谷とも丸みのある三つの互の目を低高低と繰り返す三本杉の亜風。表裏揃い、匂い口締まり、匂い深い。

帽子 乱れ込んで先小丸、返り乱れて長く、表裏とも玉を一つ飛び焼きする。

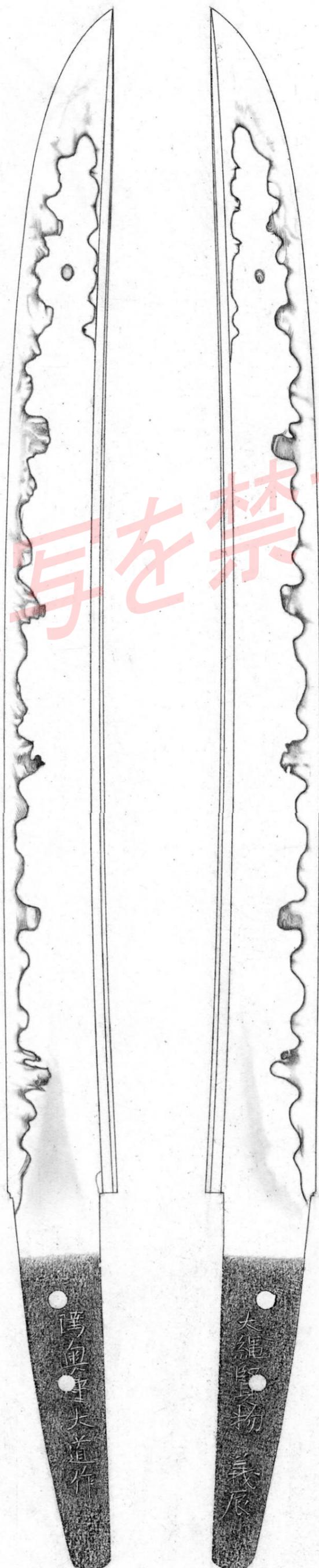
茎 生ぶ、先やや細って栗尻、刃方面取り、棟方角、鑢目勝手下り。

大道は初銘を「兼道」と云い、正親町天皇より「大」の字を賜って「大兼道」を称し、永禄十二年頃に陸奥守を受領するとともに「大道」に改銘したと云われる。

陸奥守大道銘の現存作は元龜二年（一五七二）から天正十八年（一五九〇）の十九年間に亘って見られるが作域が広く、銘振りにも相違のあるものが見られ同名鍛冶が居たとも云われる。

なお本工は「ダイドウ」と音読されているが、受領名は諱に冠するものであり、本来は「ひろみち」か「おおみち」と読むべきであろう。

裏銘の大縄賢物義辰は常陸佐竹氏の一族にして家臣、生没年は不詳。はじめ監物丞を称し、天正年間以降は讃岐守を称したと云う。従って本作は元龜天正の境頃に製作されたと推定される。



縮小率 80%

転写を禁ず